**資料１**

大東市

子ども・子育て支援新制度における  
ニーズ調査結果報告書（素案）

第３回子ども・子育て会議 配布資料

平成31年３月

大阪府　大東市

目　　次

第１章　調査実施の概要 3

１　調査の目的 3

２　調査の設計 3

３　調査票の配布と回収状況 4

４　報告書の見方について 4

（１）年齢・学年の定義 4

（２）電算処理の注意点 4

（３）グラフの見方について 5

５　調査対象者の属性・家族状況 5

（１）就学前児童の属性 5

（２）就学児童の属性 6

（３）居住地域の状況 6

（４）調査回答者の状況 7

（５）将来の希望 7

６　調査結果からみた課題・分析 9

第２章以降の目次については、次ページ以降に

参考として記載しています。

**（ページ数の記載がある項目のみ本資料で提示）**

第２章　子育て家庭を取り巻く環境 13

１　子育ての環境について 13

（１）同居・近所の状況 13

（２）子育てに関する相談者の状況 14

２　保育者の就労状況 16

（１）母親の就労状況 16

（２）父親の就労状況 16

（３）世帯収入 24

３　子育てに対する意識について 17

（１）子育てに対する意識 17

（２）地域での子育てについて 28

第３章　子育て支援サービスの現状と今後の利用希望 19

１　平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望 19

（１）平日の定期的な教育・保育事業 19

（２）定期的な教育・保育事業の利用理由と未利用の理由 20

２　休日の定期的な教育・保育事業の利用希望 52

（１）土曜と日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望 52

（２）長期休暇中の教育・保育事業の利用希望 54

３　病児・病後児保育事業の潜在ニーズ 21

４　不定期の一時保育の利用について 24

（１）不定期に利用している教育・保育事業の状況 24

（２）宿泊を伴う一時保育の利用状況 25

（３）地域支援サービスについて 26

５　放課後児童クラブの現状と今後の利用希望 74

（１）平日の放課後児童クラブの利用状況と利用希望 74

（２）土曜日、日曜日・祝日、長期休暇期間中の

放課後児童クラブの利用希望 86

６　普段の過ごし方と地域について 28

（１）普段の過ごし方について 28

（２）地域への参加について 94

第４章　育児休業制度の利用状況等 31

１　育児と仕事の両立支援制度について 31

（１）育児休業制度の利用状況 31

（２）職場復帰の状況 101

２　仕事と子育ての両立について 103

第５章　生活環境と市への要望 35

１　生活環境の整備と安全の確保について 109

（１）外出について 109

（２）地域への要望 111

２　市役所などへの要望と住居について 35

（１）子育て支援サービスについて 35

（２）大東市の住居について 114

第６章　子ども・子育て支援に関する自由意見 119

１　就学前児童の保護者の自由意見 119

（１）子育てサポートについての自由意見 119

（２）教育・保育環境の充実についての自由意見 121

２　就学児童の保護者の自由意見 123

（１）子育てサポートについての自由意見 123

資料編 125

１　就学前児童の調査票 125

２　就学児童の調査票 126

第１章

調査実施概要

第１章　調査実施の概要

# １　調査の目的

本市では「子ども・子育て支援法」に基づき、全ての子どもや子育て家庭が健やかに成長することができる社会の実現を目指して、平成27年３月に「大東市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、様々な子育て支援事業に取り組んでいますが、本計画が平成27年度から31年度までの５か間計画であることから、2020年度を始期とする第２期計画の策定を予定しています。

第２期計画策定にあたり、必要な情報を得るため、子育て家庭ニーズの動向分析等を行い、市の現状と今後の子ども・子育て支援における課題を整理することを目的としたアンケート形式によるニーズ調査を実施しました。

# ２　調査の設計

調査票は調査対象者別に作成しており、各調査の件数および調査期間・方法は、以下のとおりです。

■　調査票の種類と調査対象者及び調査の実施方法

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ①調査票「子ども・子育て支援新制度におけるニーズ調査（就学前児童用）」 | | |
|  | 調査対象者 | 平成30年10月１日時点で、市内に居住する就学前児童の保護者 （無作為抽出） |
|  | 調査票配布数 | 1,800人 |
|  | 調査期間 | 平成31年1月4日～平成30年1月28日 |
|  | 調査方法 | 郵送による配布・回収（1月21日に督促状を発送） |
| ②調査票「子ども・子育て支援新制度におけるニーズ調査（就学児童用）」 | | |
|  | 調査対象者 | 平成30年10月１日時点で、市内に居住する就学児童の保護者 （無作為抽出） |
|  | 調査票配布数 | 900人 |
|  | 調査期間 | 平成31年1月4日～平成30年1月28日 |
|  | 調査方法 | 郵送による配布・回収（1月21日に督促状を発送） |

# ３　調査票の配布と回収状況

調査によるそれぞれの配布・回答状況は、以下のとおりです。

■　調査票の配布・回収状況

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 調査対象者 | 配布数(人) | 回収数(人)  上段：1/29時点回収分※  下段：最終回収分 | 回収率(％) |
| 就学前児童の保護者 | 1,800 | 781  882 | 43.4  49.0 |
| 就学児童の保護者 | 900 | 349  403 | 38.8  44.8 |

　　※第３回会議資料としては、１月29日時点回収分の暫定的な集計を速報値として提示

# ４　報告書の見方について

## （１）年齢・学年の定義

就学前児童・就学児童の年齢定義は、アンケート調査において誕生日の年月を回答しているため、下表による年齢区分により集計を行いました。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 年齢区分 | 該当する生年月 | 年齢区分 | 該当する生年月 |
| ０歳児 | 平成29年４月以降 | ６歳児 | 平成23年４月～平成24年３月 |
| １歳児 | 平成28年４月～平成29年３月 | ７歳児 | 平成22年４月～平成23年３月 |
| ２歳児 | 平成27年４月～平成28年３月 | ８歳児 | 平成21年４月～平成22年３月 |
| ３歳児 | 平成26年４月～平成27年３月 | ９歳児 | 平成20年４月～平成21年３月 |
| ４歳児 | 平成25年４月～平成26年３月 | 10歳児 | 平成19年４月～平成20年３月 |
| ５歳児 | 平成24年４月～平成25年３月 | 11歳児 | 平成18年４月～平成19年３月 |

（注）調査期間【平成30年度】における年齢定義

## （２）電算処理の注意点

調査結果の数値については小数点第２位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100％に合致しない場合があります。

なお、基数となる実数は「n」として掲載し、各グラフや表の比率は「n」を母数とした割合を示しています。

また、複数回答が可能な設問では、各項目の割合の合計が100％を超える場合があります。

## （３）グラフの見方について

調査票「就学前児童の保護者」の設問番号です。

調査票「小学生の保護者」の設問番号です。

問1[問1]　居住地域

# ５　調査対象者の属性・家族状況

## （１）就学前児童の属性

○回答された781人の就学前児童の属性は、以下のとおりです。

問3　年齢 問4　子どもの人数

## （２）就学児童の属性

○回答された349人の就学児童の属性は、以下のとおりです。

[問3]　学年 [問4]　子どもの人数

## （３）居住地域の状況

○調査対象者別の回答者の居住地域（４区分）は以下の通りです。

問1[問1]　居住地域（４区分）



地域区分図

# ６　調査結果からみた課題・分析

最終回収分を入力・集計した後で作成

第２章

子育て家庭を取り巻く環境

第２章　子育て家庭を取り巻く環境

# １　子育ての環境について

## （１）同居・近居の状況

○同居・近居の状況をみると、「父と母と一緒に住んでいる」が就学前児童、就学児童いずれも８割を超えています。「母と一緒に住んでいる（母子家庭）」については、就学前児童（7.2％）に比べて、就学児童（12.0％）の方が多くなっています。

問7[問5]　宛名のお子さんとの同居・近居の状況

## （２）子育てに関する相談者の状況

○就学前児童の気軽に相談できる人の有無をみると、「いる／ある」と回答した方は９割以上を占めています。

○気軽に相談できる相手の状況をみると、「配偶者」（82.1％）、「ご自身や配偶者の、親せき、（同居している）家族」（78.4％）、「友人や知人」（64.9％）をあげた割合が高くなっています。

問10　子育てに関して気軽に相談できる人の有無 問10-1　気軽に相談できる相手

○就学児童の気軽に相談できる人の有無をみると、「いる／ある」と回答した方は約９割を占めています。

○気軽に相談できる相手の状況をみると、「ご自身や配偶者の、親せき、（同居している）家族」（78.4％）、「配偶者」（76.8％）、「友人や知人」（71.3％）をあげた割合が高くなっています。

[問8]　子育てに関して気軽に相談できる人の有無 [問8-1]　気軽に相談できる相手

# ２　保育者の就労状況

## （１）母親の就労状況

○母親の就労状況をみると、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」を合わせた現在就労している方は、就学前児童で51.6％、種額児童で72.8％となっています。そのうち産休・育休・介護休業を取得中の方は、就学前児童で9.2％、就学児童では0.3％となっています。

問11(1)[問9(1)]　母親の就労状況

## （２）父親の就労状況

○父親の就労状況をみると、「無回答」を除くと「フルタイムで就労している」がほぼ全てを占めています。

問11(2)［問9(2)］　父の就労状況

# ３　子育てに対する意識について

## （１）子育てに対する意識

○日常的に子どもの話や世間話をする人の有無をみると、「いる」が約７割となっています（就学前児童 72.5％、就学児童 69.9%）。

○子育てについて、就学前児童は「楽しいと感じることが多い」が50.3％となっており、「楽しいと感じることとしんどいと感じることが同じくらい」の41.5％に比べて高く、就学児童は「楽しいと感じることが多い」が44.4％、「楽しいと感じることとしんどいと感じることが同じくらい」が45.0％とほぼ同数となっています。

○就学児童の方が就学前児童に比べて「しんどい」と感じる回答が高くなっています。

問13［問31］　日常的に子どもの話や世間話をする人の有無

問14[問11]　子育てについて感じること

○子育てをするために必要な支援・対策についてみると、就学前児童、就学児童ともに「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」が最も高くいずれも50％を超えています。

○その他の支援・対策では、就学前児童では、「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」が高く（39.6％）、就学児童では、「子どもを対象にした犯罪・事故の軽減」が高くなっています（46.4％）。

問15　子育てをするために必要な支援・対策

[問12]　子育てをするために必要な支援・対策

第３章

子育て支援サービスの現状と

今後の利用希望

第３章　子育て支援サービスの現状と今後の利用希望

# １　平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

## （１）平日の定期的な教育・保育事業

○定期的な教育・保育事業を「利用者している」方は68.5％となっています。

○利用中の事業をみると、「認定こども園」が32.3％、「認可保育所」は29.9％、「幼稚園」は22.1％の方が利用しています。

問18　定期的な教育・保育事業の利用状況

問18-1　定期的な教育・保育事業の利用状況

## （２）定期的な教育・保育事業の利用理由と未利用の理由

○平日の定期的な教育・保育事業の利用意向を事業別にみると、「利用料がかかっても、利用したい」と「無償であれば、利用したい」を合わせた利用希望者は、「認定こども園」（64.5％）、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」（63.0％）、「認可保育所」（59.9％）、「幼稚園の預かり保育」（57.9％）で高い割合となっています。

問20　平日の教育・保育事業として「定期的に」利用したい事業

# ３　病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

○病気やケガで、幼稚園、保育所等が利用できなかった経験がある就学前児童は54.3％、小学校を休まなければならなかったことがある就学児童は65.0％となっています。

○対処方法としては、就学前児童、小学生ともに「母親が休んだ」が最も高く（就学前73.1％、就学児童60.4％）なっています。「父親が休んだ」については、就学児童に比べて就学前児童の方が特に高くなっています（就学前19.8％、就学児童4.0％）。

問19　病気やけがで、幼稚園や保育所（園）などを利用できなかったことの有無  
［問15］病気やけがで、小学校を休まなければならなかったことの有無

問19-1［問15-1］　この１年間の対処方法

○就学前児童の対処にともない、休まなければならなかった日数については、「１～２日」「３～５日」を合わせると、「母親が仕事を休んだ」以外の方法では約８割となっているものの、「母親が仕事を休んだ」の「６～10日」が他の方法に比べて高くなっています。

問19-1　休まなければならなかった日数

対象者はありませんでした

対象者はありませんでした

単位：上段（人）　下段（％）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 対処方法 | 休まらなければならなかった日数 | | | | | | |
| １～２  日 | ３～５  日 | ６～10  日 | 11～20  日 | 20日  以上 | 無回答 | 合計 |
| 父親が仕事を休んだ | 49 | 22 | 10 | 0 | 2 | 1 | 84 |
| 58.3 | 26.2 | 11.9 | 0.0 | 2.4 | 1.2 | 100.0 |
| 母親が仕事を休んだ | 97 | 98 | **69** | 24 | 15 | 7 | 310 |
| 31.3 | 31.6 | **22.3** | 7.7 | 4.8 | 2.3 | 100.0 |
| ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった | 61 | 41 | 14 | 5 | 2 | 7 | 130 |
| 46.9 | 31.5 | 10.8 | 3.8 | 1.5 | 5.4 | 100.0 |
| 働いていない父親か母親が子どもを  みた | 27 | 29 | 12 | 3 | 1 | 1 | 73 |
| 37.0 | 39.7 | 16.4 | 4.1 | 1.4 | 1.4 | 100.0 |
| 保育所（園）や病院に併設する病気の子どものための保育施設を利用した | 10 | 12 | 0 | 1 | 1 | 1 | 25 |
| 40.0 | 48.0 | 0.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 100.0 |
| ベビーシッターを利用した |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
| ファミリー・サポート・センターを  利用した |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
| 仕方なく子どもだけで留守番をさせた | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 |
| その他 | 2 | 1 | 3 | 0 | 0 | 1 | 7 |
| 28.6 | 14.3 | 42.9 | 0.0 | 0.0 | 14.3 | 100.0 |

○就学児童の対処にともない、休まなければならなかった日数についても、「１～２日」「３～５日」を合わせると、多くを占めているものの、「働いていない父親か母親が子どもをみた」の「６～10日」が他の方法に比べて高くなっています。

［問15-1］　休まなければならなかった日数

対象者はありませんでした

対象者はありませんでした

単位：上段（人）　下段（％）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 対処方法 | 休まらなければならなかった日数 | | | | | | |
| １～２  日 | ３～５  日 | ６～10  日 | 11～20  日 | 20日  以上 | 無回答 | 合計 |
| 父親が仕事を休んだ | 6 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 |
| 66.7 | 33.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 |
| 母親が仕事を休んだ | 71 | 47 | 14 | 3 | 0 | 2 | 137 |
| 51.8 | 34.3 | 10.2 | 2.2 | 0.0 | 1.5 | 100.0 |
| ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった | 36 | 11 | 3 | 0 | 0 | 3 | 53 |
| 67.9 | 20.8 | 5.7 | 0.0 | 0.0 | 5.7 | 100.0 |
| 働いていない父親か母親が子どもを  みた | 15 | 21 | **8** | 0 | 1 | 2 | 47 |
| 31.9 | 44.7 | **17.0** | 0.0 | 2.1 | 4.3 | 100.0 |
| 保育所（園）や病院に併設する病気の子どものための保育施設を利用した | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 |
| ベビーシッターを利用した |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
| ファミリー・サポート・センターを  利用した |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
| 仕方なく子どもだけで留守番をさせた | 6 | 3 | 1 | 0 | 0 | 2 | 12 |
| 50.0 | 25.0 | 8.3 | 0.0 | 0.0 | 16.7 | 100.0 |
| その他 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 5 |
| 80.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 20.0 | 100.0 |

# ４　不定期の一時保育の利用について

## （１）不定期に利用している教育・保育事業の状況

○定期の教育・保育事業の利用について、就学前児童は「利用していない」方が８割以上となっています。次いで「幼稚園の預かり保育」が8.8％、「一時預かり」が4.0％となっています。

問23　不定期に利用している教育・保育事業

○就学児童は、「預けるようなことはなかった」が46.4％、「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった」が45.8％とほぼ同数となっています。「ファミリー・サポート・センター」の利用はわずかとなっています。

［問16］　一時的に子どもを預ける場合の預け先

## （２）宿泊を伴う一時保育の利用状況

○この１年間に保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預けた方は、就学前児童は11.2％、小学生は8.9％となっています。

○この対処方法は、就学前児童・小学生ともに「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった（同居している場合も含む）」（84.6%・96.8%）が最も高くなっています。

問25［問17］　この１年間に保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預けたことの有無

問25-1［問17-1］　家族以外に預けたことがある人の対処方法

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 対処方法 | 問25-1  n＝91 | [問17-1]  n＝31 |
| ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった （同居している場合も含む） | 84.6% | 96.8% |
| 短期入所生活援助事業（ショートステイ）を利用した （児童養護施設などで一定期間子どもを預かるもの） | 2.2% | 0.0% |
| 上記以外の保育サービス（ベビーシッターなど）を利用した | 0.0% | 0.0% |
| 仕方なく子どもを同行させた | 17.6% | 0.0% |
| 仕方なく子どもだけで留守番をさせた | 0.0% | 3.2% |
| その他 | 2.2% | 0.0% |

## （３）地域支援サービスについて

○就学前児童では、「ネウボランドだいとう」は「知っている」の28.6％に比べて「利用したことがある」3.3％と低くなっていますが、「今後利用したい」は「知っている」を上回る31.4％となっています。

問28　サービスの周知状況と利用状況

今後利用したい

利用したことがある

知っている

○就学児童のサービスの周知・利用状況については、「放課後児童クラブ」は41.8％と高くなっていますが、その他サービスの利用は低調となっています。

○「ネウボランドだいとう」については、就学前児童（28.6％）に比べて周知が進んでいない状況となっています。（15.5％）

［問23］　サービスの周知状況と利用状況

今後利用したい

利用したことがある

知っている

# ６　普段の過ごし方と地域について

## （１）普段の過ごし方について

○平日14時～16時では、「授業などで学校にいる」が59.0％と最も高く、次いで「放課後児童クラブで過ごす」が16.9％となっています。

○平日16時～18時では、「放課後児童クラブで過ごす」が25.5％と最も高くなっていますが、「家や公園などで友だちと過ごす」（22.6％、）「学習塾や習い事へ行く」（21.5％）も高くなっており、過ごし方について分かれる時間帯となっています。

○平日18時以降、休日は「保護者や兄弟姉妹などの家族と過ごす」が約８割を占めていますが、平日18時～20時は「学習塾や習い事へ行く」（6.6％）、休日は「家や公園などで友だちと過ごす」（8.6％）が次いで高くなっています。

［問21］　放課後および休日の日常的な過ごし方

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 授業などで学校にいる | 放課後児童クラブで過ごす | 放課後子ども教室に参加する | 保護者や兄弟姉妹などの家族と過ごす | 家事育児代行サービスなどを 利用する | 家や公園などで友だちと過ごす | 児童館など公共の施設にいる | スポーツクラブの活動やこども会などの 地域活動に参加する | 学習塾や習い事へ行く | 家で、ひとりで勉強などをする |
| 平日14～16時 | **59.0** | **16.9** | 0.3 | 5.7 | 0.0 | 9.5 | 0.3 | 0.0 | 1.1 | 3.4 |
| 平日16～18時 | 0.3 | **25.5** | 0.3 | 19.5 | 0.3 | **22.6** | 0.3 | 2.0 | **21.5** | 3.7 |
| 平日18～20時 | 0.0 | 0.6 | 0.3 | **81.9** | 0.3 | 0.3 | 0.0 | 0.6 | 6.6 | 4.0 |
| 平日20時以降 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | **89.7** | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.3 | 2.3 |
| 休日 | 0.0 | 0.3 | 0.0 | **78.5** | 0.0 | 8.6 | 0.3 | 2.0 | 2.0 | 1.4 |

第４章

育児休業制度の利用状況等

第４章　育児休業制度の利用状況等

# １　育児と仕事の両立支援制度について

## （１）育児休業制度の利用状況

○育児休業制度の利用状況をみると、母親は「育児休業を取った、あるいは、今取っている」が31.4％である一方、父親は5.2％となり、父親が取得することの難しさが伺えます。

○母親の「働いていなかった」を除く件数に対し、「育児休業を取った、あるいは、今取っている」と回答した比率（＝育児休業取得率）は、65.5％となります。

問33　育児休業制度の利用状況

第５章

生活環境と市への要望

第５章　生活環境と市への要望

# ２　市役所などへの要望と住居について

## （１）子育て支援サービスについて

問40[問33]　希望する子育て支援サービス